

| | |
|-------------------|-----|
| ③ 地域別入学者数 | |
| 北海道・東北地方 | 1名 |
| 関東地方 | 89名 |
| 中部・近畿地方 | 10名 |
| 中国・四国地方 | 2名 |
| 九州地方 | 2名 |
| その他（高等学校卒業程度認定試験） | 1名 |

Ⅲ. 国家試験

1. 医師国家試験

第116回医師国家試験の結果が3月16日（水）に発表され、本学の新卒受験者108名のうち106名が合格し、既卒では受験者6名のうち5名が合格、合計では総受験者114名のうち111名が合格した。合格率は97.4%である。全国の医科大学81校の平均合格率は91.7%で、本学の合格率は私立医科大学30校の中では2位、国公私立を含む全医科大学の中では4位であった。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は、看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員原則4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下のとおりである。

2021年4月～2022年3月

教学委員長 田中 幸子

教学委員 小谷野康子、嶋澤 順子、梶井 文子、高橋 衣

2. 教学関連の主な事項

- ① 2021年度は、1年生62名、2年生58名、3年生60名、4年生59名で新学期を迎えた。
- ② 2021年度オリエンテーションは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部eラーニングで実施した。1年生は4月8日～16日にカリキュラムおよび慈恵メールやeラーニングの使用法、健康チェックの入力法などの説明を行った。2～4年生は4月5日に選択科目や実習に関する説明を行った。また、4月16日には卒業生をシンポジストに迎え、シンポジウム（生涯発達とキャリア開発のために）を開催した。
- ③ 2～4年生の科目横断総合試験は、自身の知識獲得状況を確認し、今後の学修課題を明確にすることを目的として行っているが、今年度は4月6日にeラーニング上で実施した。
- ④ 登校授業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を勘案し、感染対策を徹底の上実施し、臨地実習についても、事前に臨地での実施が出来ない場合、臨地と学内演習、遠隔実施の混合型など幾つかのシラバスパターンを作成し、状況に対応できるようにした。
- ⑤ 4月10日に1年生保護者説明会、6月26日に全学年の保護者を対象とした学生に関する情報交換会をZoomで実施した。
- ⑥ 次の期間に定期試験を実施した。
前期 7月3日、10日、30日、8月23日～8月26日、9月13日～9月25日
後期 12月21日、1月24日～2月4日
- ⑦ 29期生の「看護への思いを新たにす式」は、8月28日当日、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、急遽Zoomで実施となった。
- ⑧ 例年実施している英国キングスコレッジロンドンとの交換留学や、米国ポートランド看護研修、シンガポール看護研修等、海外研修はすべて中止とした。
- ⑨ 10月28日、解剖諸霊位供養法会が行われ、学生代表が参加した。
- ⑩ 11月6日、4年生の看護研究発表会を開催した。
- ⑪ 10月9日、学祖高木兼寛先生の墓参に、学生代表が参加した。

- ⑫ 12月23日、拡大カリキュラム情報交換会をZoomにより開催した。
- ⑬ 3月2日、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会をZoomにより開催した。
- ⑭ 3月5日、医学科と合同による卒業式が西新橋キャンパスで行われ、59名が卒業し、慈大賞、同窓会賞、保護者会賞がそれぞれ贈られた。
- ⑮ ディプロマポリシーに沿ったカリキュラム評価を行った。

II. 入学試験

1. 2022年度入学試験では、学校推薦型選抜（指定校制）入学試験が2回目の実施となり、11月20日に小論文と面接を行った。一般選抜入学試験は、2月6日に一次試験（筆記試験）を、2月9日に二次試験（面接）を実施した。英語外部資格検定試験のスコア利用は2回目となった。志願者は320名（うち学校推薦型選抜3名）であり、学校推薦型選抜も含めた入学者は60名（うち学校推薦型選抜3名）であった。

尚、本年度は新型コロナウイルス罹患者や濃厚接触者のための追試験も実施された。

入学者の内訳は次のとおりである。

- ① 女子 60名、男子 0名
- ② 現役 56名、1浪 3名、2浪 1名
- ③ 地域別（高校所在地別）入学者数

| | |
|------|-----|
| 岩手県 | 1名 |
| 宮城県 | 1名 |
| 新潟県 | 3名 |
| 茨城県 | 1名 |
| 埼玉県 | 7名 |
| 千葉県 | 3名 |
| 東京都 | 30名 |
| 神奈川県 | 11名 |
| 静岡県 | 2名 |
| 福岡県 | 1名 |

2. 2021年度はZoom個別相談会を、7月18日、8月22日、10月31日の3日間開催した。また3月30日には、看護系予備校の新宿セミナー生を対象とした大学説明会と模擬授業を開催した。この他学外で開催された大学進学ガイダンス等に学事課職員が参加し、受験生の確保を推進した。

III. 国家試験

第111回看護師国家試験は2022年2月13日に、第108回保健師国家試験は2022年2月11日に実施され、結果が3月25日に発表された。結果は下記のとおりである。

看護師 60名受験（既卒1名）、60名合格 合格率 100.0%（全国平均91.3%）

保健師 22名受験（既卒0名）、22名合格 合格率 100.0%（全国平均89.3%）

IV. 学生生活アドバイザー

若手教員が1、2年生の5～6名の学生を担当し、前期、後期にそれぞれ適宜活動を行った。特に1年生担当については、遠隔学習環境に関する相談や学習や生活上の悩みなど、コロナ禍での学生のメンタル面を支える手段として有益であった。

V. 進路指導関係

指導対象とする学年を3年生からに早める取り組みを行ったが、附属病院説明会や卒業生ナースとの懇談会は、新型コロナウイルス感染流行の影響により中止とした。

2022年3月卒業生59名の進路の内訳は、次のとおりである。

| | |
|------------|-----|
| 本学附属病院への就職 | 29名 |
| 進学 | 6名 |
| 保健師として就職 | 3名 |
| 他病院 | 21名 |

VI. その他

1. 看護学科、大学院看護学専攻が、附属病院、地域住民、地方自治体および地方の保健医療福祉機関と連携し、地域住民の健康と生きる力を看護の力で支える活動を組織的に展開することを目的とする地域連携看護学実践研究センター（JANPセンター）が開設4年目を迎えた。みんなの活動、みんなのまなび場、みんなの保健室の3部門の活動とともに、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習の機会の少なかった卒業生の臨床現場への移行期支援を行った。
2. 日本看護学教育評価機構（JABNE）の看護学教育評価を受審し、「適合」の評価を得た。
認証期間：2022年4月1日～2029年3月31日

(3) 大学院

I. 医学研究科医学系専攻博士課程

大学院の授業・研究・制度等について、改善と充実を図るため、大学院委員会において種々の検討を重ね、2021年度は次の事項を実施した。

1. 研究助成制度の運営について
研究の充実と活性化を堅持することを目的として、各種研究助成制度を運営している。2021年度の採択件数は次のとおりである。
 - 1) 大学院研究助成金
・2021年度採択件数：16件
 - 2) 医学研究科研究推進費
・2021年度採択件数：新規2件、継続2件
 - 3) 萌芽的共同研究推進費
・2021年度採択件数：新規5件
2. がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」の継続について
筑波大学を代表校とする文部科学省がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」に連携12大学のひとつとして加わり、①がんゲノム医療人養成、②小児・AYA・希少がん専門医療人養成、③包括的ライフステージサポート医療人養成の3コースを設けており、2021年度は15名が新規で受講登録をした。
3. 国立がん研究センターとの連携大学院について
2021年度は6名の連携大学院生が課程を修了（学位取得）した。また、連携大学院教授の学位論文審査委員会審査委員への任用も行われた。1月14日に「第3回連携大学院生による研究発表会」をオンラインで開催し、大学院生22名、教職員20名が参加した。
4. 国立精神・神経医療研究センターとの連携大学院について
2021年度より国立精神・神経医療研究センターと連携大学院制度を開始し、10月1日に合同シンポジウムをオンラインで開催した。また、連携大学院准教授の学位論文審査委員会審査委員への任用も行われた。
5. 入学試験について
2022年度の大学院医学研究科医学系専攻博士課程入試について、一次募集は2021年9月25日に、二次募集は2022年1月22日に実施した。42名（うち社会人21名）が合格し、国立がん研究センターの連携大学院生は10名、国立精神・神経医療研究センターの連携大学院生は4名である。本学の大学院生は学内の各講座、総合医科学研究センターのみならず、東京大学、京都大学、九州大学、慶應義塾大学、杏林大学、東京女子医科大学、日本医科大学、東京医科歯科大学、東海大学、国立成育医療研究センター、国立国際医療研究センターなど国内の様々な国公私立大学、研究所で広く研究を行っている。
6. その他
 - 1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、共通カリキュラムは対面式講義から遠隔講義に切り替え、eラーニングやオンライン会議システムを活用した。